

出所：国税庁 酒のしおり（平成 30 年 3 月）

<http://www.nta.go.jp/taxes/sake/shiori-gaikyo/shiori/2018/index.htm>

平成 5 年から平成 28 年における日本の酒類別の酒類（消費）数量の推移を見ると、日本全体の総消費量はこの 23 年で緩やかに減少している。若者が酒を飲んでいないなら、国内の酒の総消費量は年々減っていくはずである。

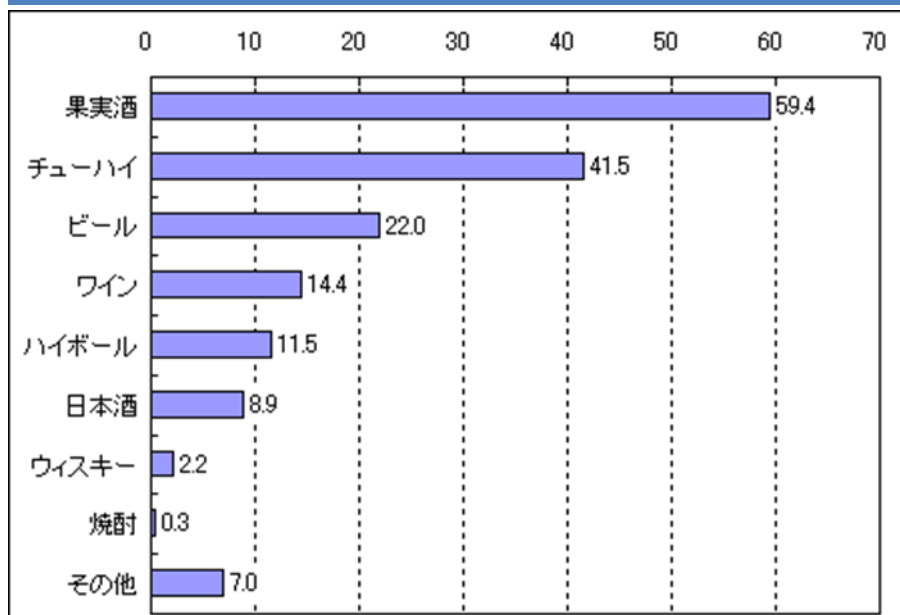
世間話や多くの記事で、若者は酒を飲まないという認識が見られる。しかし、厚生労働省の統計を見ると、若者の飲酒量が著しく減っているという結果は見られない。

3. 研究テーマの課題

内訳をみるとビールについて最も消費していた平成 6 年から 20 年後の 26 年にはその消費量が半分以下に落ち込み、その代わりに台頭してきたのがリキュールである。

リキュールとは、酒税法によると「酒類と糖類その他の物品（酒類を含む）を原料とした酒類でエキス分が 2 度以上のもの（清酒、合成焼酎、しょうちゅう、みりん、ビール、果実酒類、ウイスキー類、発泡酒、粉末酒を除く。）」と定義されている。リキュールは一般的に製造方法や原料を規定されていない。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）



出所：エムパックホームページ (https://www2.fgn.jp/mpac/data/8/?d=201602_08)

昭和女子大学が 2015 年 12 月に在学生を対象に行った「日本酒の女性市場拡大等に関するアンケート調査」における「好きなアルコール飲料は？」という質問（2 項目複数回答可能）によると、果実酒とチューハイが多くビールは三番目になっていることがわかる。このことから 20 代の大学生は甘いお酒を好むことがわかる。チューハイとは焼酎を炭酸水で割り、多くをシロップや果汁で甘くしたもので、酒税法上ではエキス分 2 度以上のものをリキュール、2 度未満のものをスピリッツに分類する。すなわち、若者にはリキュールを用いたアルコール飲料が好まれている。

また、総務省統計局平成 25 年の「ビール・発泡酒・ビール風アルコール飲料」への支出」によると 20 代のビール類の消費量はほかの年代に比べて著しく低い。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

若者の飲酒の実態を調べるため、文献調査を行う。

厚生労働省の国民栄養・健康調査や国税庁の統計などを比較する。

6. 結果や今後の取り組み

若者はビール類よりも甘いお酒を好む傾向があることが分かった。また、若者のお酒の消費量の推移については、ほかの年代に比べて著しく減少している傾向は見られなかった。これらのことから、若者はお酒離れしたわけではなく、お酒の飲み方がビールからリキュールを用いた甘いアルコール飲料に移行したのだと考える。

7. 参考文献

- ・国税庁 統計情報
<http://www.nta.go.jp/publication/statistics/kokuzeicho/tokei.htm> (10月31日閲覧)
- ・厚生労働省 国民健康・栄養調査
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chousa.html (10月31日閲覧)
- ・Mpac > 消費者アンケート > (生活シーン) 嗜好品 日本酒の女性市場拡大等に関するアンケート調査
https://www2.fgn.jp/mpac/_data/8/?d=201602_08 (2018年11月7日閲覧)
- ・酒税法等の改正のあらまし (平成18年4月)
<https://www.nta.go.jp/taxes/sake/kaisei/aramashi2006/index.htm> (2018年11月7日閲覧)
- ・総務省統計局 ホーム>統計データ>家計調査>家計ミニトピックス (家計調査)
<http://www.stat.go.jp/data/kakei/tsushin/index.html> (2018年11月7日閲覧)

●パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

なし

●発表時に使用する成果物 (例. 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート)

なし

【企画シート作成上の注意】 ※「第9回 西日本インカレ (合同研究会) 大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更 (チームの人数・交代など) は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・企画内容は、未発表の (過去に他誌・HPなどに発表されていない) ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版權の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先 (使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など) を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。